

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200385		
法人名	株式会社グランファリスナー		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
所在地	岐阜県美濃加茂市西町7丁目101番地2		
自己評価作成日	平成28年3月1日	評価結果市町村受理日	平成28年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&ligyosvoCd=2171200385-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①体力維持、筋力アップのためのラジオ体操、ストレッチ体操など時間をかけて行っている。必要に応じ利用者様個別プログラム作成し実施している。また口顎を鍛えるため口の体操を1日2回食前に必ず行います。</p> <p>②天気の良い日は体力に応じた散歩をして季節の変化を感じる支援をしている。</p> <p>③音楽療法を軸にピアノ、ハーモニカ、打楽器等を使いながら歌声の響くグループホームで利用者様は読み聞かせ、編み物、時期、季節の壁紙を作成したり行事等の楽しみを見つけて毎日を穏やかに生活している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所周辺は住宅地であるが、向かいの木立や玄関前斜面の草花から季節を味わうことができるホームである。開設以来11年、利用者のノロウイルスやインフルエンザ発症者がゼロという実績をもつ事業所であり、これは看護師でもある管理者のもと、全職員が常に利用者の健康、栄養、衛生面の管理に尽力してのことである。、職員の離職も極めて少数であり、そうした職員の努力を誇りに思い、働きやすい福利厚生となっている。利用者の自立支援を心がける工夫により、従前の趣味や特技をよみがえらせ活かして、退屈しない、楽しく穏やかな生活を支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目のつくところに設置し一日の業務分担表に記載して職員が共有、実践できるよう努力している。	地域密着型サービスの意義が分かる事業所の理念が明文化されており、全職員がその精神を共有し、日々実践する中で、その人らしい暮らしへの支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出、散歩等で出会った方々時は大きな声で挨拶をします。いきいきボランティアの方々に来ていただいています。	ホーム主催の夏祭りには、多くの地域住民が参加し、地域交流の大切な行事となっている。また春には子供神輿の休憩所になったり、保育園の行事に参加したりして地域と交流している。折り紙や調理のボランティア、落語、音楽療法など地域住民の協力のもと行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回の夏祭りを開催する際には近隣住民数十軒にチラシを配布し参加していただけるよう呼びかけている。秋には地元の保育園の運動会に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行い民生委員、近隣住民、自治会長の参加もしていただき意見交換をしている	隔月での会議が定着し、事業所からは行事や運営の報告をし、行政からは「高齢者の見守り」「ヒートショック」など時季に即した問題提起や、後援会の案内などがある。自治会や家族からも意見や質問などが出され、サービスの向上に努めている。	参加者に地域密着型サービスの意義を理解してもらい、地域住民が気軽に立ち寄れて、防災訓練などにも積極的に参加してもらえる事業所になるための取り組みについて意見交換できる会議に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1ヶ月に1回地域ケア会議が行われ必ず参加している。入居者の情報等お願いしている。	市や地域包括の担当者とは、介護保険の手続きや待機者の情報などで日頃から連絡を密にしている。月1回の地域ケア会議には必ず出席して協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止に心がけ目配り、見守りを積極的に努めている。表情、全身チェックを毎日行う。朝のバイタル、入浴時、リハパン交換時には注意をはらう。現在車椅子利用者様1名ご家族に身体拘束状況を説明し同意書を頂き拘束の理解を得ている。	拘束について職員は十分理解し、五感を働かせて抑制しないケアに努めているが、身体状況の変化に伴い、転倒などのリスクの高い利用者に対しては家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見人制度の研修を受け支援を必要としている入所者に活用を受けるよう支援した。全職員が制度について詳しく理解はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約に関する説明を丁寧に実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を反映するよう努力している。利用料請求書を発行する際担当職員による生活状況等の手紙、ひだまりニュースを発行している。	毎月の便りや各担当者からの状況報告などで、利用者の現状を家族に伝えている。家族からは面会時や電話などで思いを伝えてもらい、職員は誠実に対応している。利用料やケアなどに対する意見や要望についてもサービスの向上に活かせるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要のあるときは随時意見が反映するよう報連相の徹底をしている。稟議書に購入してもらいたいもの、必要なものを記入して提出している。	毎日の朝礼や申し送りなどで職員間での意見交換をし、チームケアに繋げている。また、職員会議や定期面接時には職員が気軽に話せるよう管理者やリーダーが工夫し、個人の意見や要望を受け止め、円滑な業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には出来る限り休暇の希望を取り入れている。職員の健康状態、家庭環境も考え休暇願い、有給休暇、傷病手当金申請等についても受入れ実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し部内研修も実施している。カンファレンス会議でも行っている。資格を取れる勤務日数期間のある職員は介護福祉士等試験を受けるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議に参加し認知症等に関する講演会、映画会研修にも参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。他施設の方々の慰問も受入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に個々のコミュニケーションを取り傾聴に心がけている。利用者様が家族と電話で話をしたい要望があれば電話をかけていただき不安を取り除くよう援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談及び入所時においても家族の要望に耳を傾け安全、安心に努めている。入所される方の情報は職員気づきノートを通じて職員皆周知するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前面談及び入所時においても家族の要望に耳を傾け、センサーマットが必要な方、部屋にテレビをおきたい方等安全、安心に暮らしていただけるように努めている。別途料金が発生するものがあれば説明する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前の事前面談及び入所時においても家族からの生活歴を聞き取り利用者情報は職員気づきノートを通じて職員皆周知するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年6回のひだまりニュースの発行と毎月の利用料請求書発行の際には担当職員からの手紙を添付している。面会の際には環境を作り一緒に家族とお部屋で過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前にお付き合いのあった友人、知人との面会については家族の了解を得ている方には会って頂いています。行き付けの場所、人に合うときは用事の際に一緒にお連れしています。	友人や知人の訪問があったり、家族の協力のもと、墓参りや思い出の食堂に出かけたりして、馴染みの人や場所との関係が継続できている。また、職員と共に近所の神社や美容院、商店への買い物に出かけるなど、地域での馴染みの場づくりにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様と関わりを持ち個性を把握しトラブルにならないよう支援している。仲良し、よく話をする方同士の席を隣同士にするなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居される方、自宅へ戻られる方へは食事、生活面でのアドバイスを行い自立支援できるよう努めている。家族の方にもどのような支援が必要か説明し理解をいただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅への帰宅願望、家族の面会願望の要望があったときには本人の意向を聞き電話をかけた後、家族に面会、外出をしていただいたりしている。	利用者の生活歴や特技、趣味などをあらかじめ把握し、日々の生活の中で今の思いを確認しながら、暮らしの中で楽しみを見いだせるよう働きかけている。本人状況により難しいときは表情などから察して検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時、入所時、面談時に利用者様、家族から情報を得ている。又利用者様との日常会話から得た情報を共有し介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎ時に日常の様子の変化について情報をつたえ介護記録、日誌、気づきノートに記入し職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際には利用者様、家族、職員と現在の状況を話し合い計画をたて同意を得ている。	インシュリン注射をしていた利用者が、チームで検討を重ねた介護計画により、食事療法や散歩を多めにすることで内服薬のみに回復された実例がある。利用者、家族、職員、関係者の十分な意見や連携で介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が次の実践への気づき、工夫になるよう検討し改善している。持病、経過観察、食事等記録の必要な利用者様は個別記録を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節を感じていただけるよう行事、誕生会、外出の計画を立て実施している。家族の参加も呼びかけて参加していただいている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボラティアの方々に訪問していただき傾聴、折り紙、お寿司作り等支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回定期的に連携医の往診で健康管理を受けている。家族の希望があれば利用者様個別でかかりつけ医の治療を受けている。	全利用者が協力医による往診を受けている。また、本人、家族の希望により、家族対応で、かかりつけ医の受診もある。その際、事業所作成の「通院票」を持参することで、医療・家族・事業者間の情報共有ができ、適切な医療に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員のうち2名が看護職であり情報を把握したとき直ちに連携医、もしくはかかりつけ医と連絡を取り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した際も病院、家族と連絡を取り治療、退院計画について話し合いながら支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に重度化した場合特別養護老人ホームへの入所案内、当事業所として対応できることを家族に説明し終末期の対応について話し合い、早い段階から進めている。	重度化した場合の支援については、入居時に重要事項説明書にて説明し、同意を得ている。また、終末期の対応についても早い段階から家族と話し合い、納得を得られるよう対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な判断力、知識等は勉強しているが機器(AED等)での訓練が不足している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練は夜間訓練が未だ出来ない。地域との協力体制も不十分である。災害時に必要な備品、持ち出す物等については年1回確認、点検を行っている。	最近、近隣に火事があり、事業所に職員が駆け付けたが、進入禁止の規制が掛かり、事業所に到達することが困難であった、という体験をもとに、絶対に火事を出さないことが最重要と判断し、コンセントの掃除など日々細かく点検を実施している。しかし、避難訓練が行われていない。	消防署の指導のもとで、避難訓練の実施が望まれる。また、近隣の火災体験を活かし、運営推進会議で協議して、地域の災害協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の名前呼び方については本人に確認をし家族の了解も得ている。一人ひとりの人格を尊重しその人にあった言葉かけ支援をしている。職員間で情報を確認しながら対応している。	トイレ誘導や入浴介助などでは、特に個別対応の重要性を認識しながら、人格を損ねないようにさりげない声掛けや介助を提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でやってみたいこと、好きなことに可能な限り自己決定をし納得しながら暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で毎日の流れは決まっているもののその日の体調、機嫌をみて対応し生活していただいている。希望を言われれば希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を知らせ身だしなみが整うよう支援している。本人の意向で美容院に行きヘアカット毛染めも行っている。おしゃれの日を作りお化粧品、マニキュアをして楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切にし地方色を活かした食事等又、扱い方が分からない食材を頂いた時は教えてもらいながら共に料理する。日曜日には手作りおやつの日をしている。洗った食器、トレー拭きをやっていただく。	利用者の身体状況に合わせて、野菜や食器洗い、皮むき、包丁で切る、テーブルや食器拭きなど本人の保有能力を活かして、職員と一緒に調理、食事、後片付けをしている。利用者は笑顔いっぱい話しながら食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて全量摂取出来るよう食事作りから工夫している。本人の適量を把握し栄養バランスを考慮に入れ支援している。年中、水分量は特にチェックし飲み易く不足に傾きがないように援助する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の手洗い、毎食後の口腔ケアに注意し自立していない人には義歯管理も含めてケアしている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援の担当者を決めて排泄に対しての提案があれば全員で検討し改善にむけて努力している。また一人一人の状態に対応したケアを心がけている。基本はトイレでの排泄が出来るよう援助する。	利用者の身体状況の変化に伴い、布パンツ使用が難しい状況となってきたが、個人の状態に合った声掛けとトイレ誘導により、自立支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況に応じ早朝の冷水を飲む、緩下剤等に対応、大腸の走行に沿ったマッサージ、散歩等の運動も便秘予防として援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴タイムは週3回あるがタイミングの合わなかった人はいつでも入浴できるように援助している。入浴拒否する人には入浴日でない日にも働きかけたり清拭、足浴等に変更して清潔保持への支援をしている。	週3回の入浴を提供し、野草や果実を湯船に入れて季節感ある入浴となっている。拒否のある利用者には、声掛けや歌を歌うなど、利用者のお気に入りを見つけ入浴につなげている。シャワー浴や足浴も行ない個々に沿った支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体内時計を意識して可能な限り自立した入眠が得られるよう援助している。昼食後は自室のベッドで横になって休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様に処方された時、薬名と効能、注意点等ミーティングで話、その日の薬を管理する職員はケースに入れる際読み上げて確認しながら、誤薬のないよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、出来る方は自分の部屋の掃除を行っていただく。モップかけ、洗濯干しや洗濯たたみ、各自部屋へ片付けにもって行っていただく等役割を作り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り車椅子、押し車、杖等の必要な利用者様も参加していただけるよう家族やボランティアの方々にも協力を要請し外出を支援している。(外食、花見等)又、買い物、お参り、美容院等出かけられるよう支援している。	毎日30分の体操をしてから、2組に分かれて周辺への散歩に出かけている。体調に合わせて2往復する利用者もいる。また、家族やボランティアの協力を得て、買い物やお墓参り、美容院へ行ったり、花見や紅葉狩り、外食にも出かけている。	

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗られ妄想のない方には自己管理していただいています。家族の方にも所持金がいくらあるか確認しておいて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1日に何度も家に電話をかけたいひとにもその都度支援している。また、はがきにて近況を伝えるよう勧めたりもする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先、フロアーには季節の草花を飾り、季節に合わせた壁画作り、おりがみ、貼り絵等でタペストリー作成し季節を感じられるよう支援している。寒くなり始めたら室温、湿度調整しながらフロアーの床暖房を利用し快適に過ごしていただいています。	玄関には季節の花が活けられ、利用者と職員が作成した干支の大きな貼り絵が掛かっている。フロアーは天窓があり、明るく室温、湿度調整がこまめに行なわれ、冬期は床暖房で快適に過ごせている。壁面には利用者の作品が飾られ、ソファーや棚が置かれ居心地のいい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合わない雰囲気を感じたり、トラブルになると感じたときはダイナミックに配置換えをしたり職員が間に入るなどして居場所作りに注意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室作りは入居の際家族や利用者様本人が希望を活かせるよう支援している。使い慣れたチェスト、椅子、場合によっては仏壇を持参し好みの居室になるよう支援している。ただし、火気厳禁のため本人、家族にも説明し理解を得ていただいています。	居室には使い慣れた家具や調度品が配置され、家族の写真や自身の作品、生け花などが飾られ、個性的な雰囲気が出ている居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り施設のものを使用していただくよう説明し危険と思われるものは部屋に持ち込まないよう安全に留意している。調理を手伝っていただく際の刃物類の取り扱いについては職員が付き添って安全を確認しながら手伝っていただく。		